

これが湊だよーダンスとメイクとファッション、全部揃った時に初めて、自分を表現できてる感じがする

3 分ブリーフィング

【パート A：普段のメイクスタイル】

根拠：キャンメイクのブラウン×ゴールドのアイシャドウを使用。「ストリート系のダンサーの真似でゴールドを使ってる」「ダンサーっぽい感じにしたいくて」「クラスの友達にも言ってる、隠すのが面倒くさくて」「最初から堂々としてたから相手もなんとも思わなくなった」と発言。母はアパレル販売で「おしゃれって堂々としてる方がカッコいい」という価値観を持つ。

推論：メイクをオープンにできる背景にお母さんの価値観が直接影響している。「自分がなんとも思っていないから相手もなんとも思わなくなった」という発言は、自己承認が他者承認に先行している構造を示しており、小6 男児として際立った自己肯定感の高さを示している。

FD：湊のオープンさは意識的な戦略ではなく、お母さんから受け継いだ「おしゃれは性別関係ない・堂々としてる方がカッコいい」という価値観の自然な発露である。この価値観の内面化が、男児がメイクをする上での社会的障壁を実質的に無効化している。

【パート B：メイクを始めたきっかけ】

根拠：5 年生の発表会前に自分でやってみたくなって開始。「プロっぽくしたい」「ダンサーってメイクしてる人多いし」と発言。お母さんと一緒に最初のメイクをした。「大人の世界に入れてもらった感じ」「お母さんと二人でやってる感じが特別だった」「メイクってちゃんと考えてやらないといけないところがカッコいい」と発言。キャンメイクはお母さんのアドバイスで選択。「お母さんのアドバイスが正しかったって思った」と発言。

推論：メイク開始の動機はダンサーへの憧れと「プロっぽくしたい」という上昇志向だ。お母さんとの最初の体験が「大人の世界への入口」として記憶されており、メイクへの愛着の核心にお母さんとの共有体験がある。キャンメイクの選択もお母さんとの共同決定であり、ブランドへの愛着と母への信頼が一体化している。

FD：湊のメイク開始はダンサーとしての上昇志向が動機だが、継続の核心はお母さんとの共有体験にある。「先生でもあり友達でもある」お母さんとの関係がメイクを通じて形成されており、キャンメイクはその関係の象徴として機能している。

【パートC：現使用アイシャドウについて】

根拠：「発表会の動画を見てブラウン×ゴールドが照明に映えると気づいた」「ダンスの確認もするけどメイクがどう見えてるかも確認する」「キャンメイクって使いやすい、色の発色がわかりやすい、初心者でも使いやすい」「まだキャンメイクでやりたいことが全部できてないから今はキャンメイクでいい」「色の組み合わせをまだ全部試してないからまだ探してる感じ」「目的がはっきりしてれば一人でも入れる気がする、決めてから入ると堂々と入れる」と発言。

推論：動画という客観的な記録でメイクの効果を確認するプロセスが確立している。「まだ探してる感じ」という発言はキャンメイクへの継続的な探求意欲を示しており、色の豊富さが継続使用の動機になっている。「決めてから入ると堂々と入れる」という発言は、自己承認が先行すると行動が変わるという湊の価値観と一致している。

FD：キャンメイクは湊にとって「まだ全部探せていない豊かな実験場」として機能している。色の豊富さが継続使用の最大の理由であり、ダンスのパフォーマンスとの連動において「照明に映える」という実用的価値も持っている。

【パートD：キャンメイクについて】

根拠：「頼れる感じのブランド、裏切らない感じ」「思った通りに仕上がる」「道具でもあるけど相棒みたいな感じ」「発表会も練習もキャンメイクと一緒にやってきた感じ」「キャンメイクが基準になってる、他のを試す時もキャンメイクと比べてどうかって考えてる」「最初に一緒に選んだブランドだから思い出がある」「おしゃれは性別関係ないってお母さんから自然に入ってた」「好きなものを好きって言える方がかっこいい」と発言。

推論：キャンメイクへの愛着はブランドへの信頼だけでなく、お母さんとの最初の共有体験に根ざしている。「相棒」という言葉はダンスとメイクを一体として捉える湊の価値観を反映しており、キャンメイクがその一体感の象徴になっている。「おしゃれは性別関係ない」という価値観の内面化が、男児がキャンメイクを選ぶ上での心理的障壁を完全に取り除いている。

FD：湊にとってキャンメイクは「お母さんと一緒に作ってきた自分の歴史」と一体化したブランドである。機能的価値（使いやすい・裏切らない）に加え、情緒

的価値（思い出・相棒・基準）が重層的に積み上がっており、他ブランドへの移行障壁が高い。

【パート E：メイクを頑張る理由・これから】

根拠：「内側から出てくるかっこよさ、服とメイクとダンスが全部合わさってかっこいい」「自分でかっこいいって思えることの方が大事」「発表会の動画を見て自分でかっこいいって思えた時に気持ちよかった」「自分が納得してないと褒められても素直に受け取れない」「湊ってこういう人だよって言葉じゃなくて体で見せてる感じ」「ダンスとメイクとファッションで全部表現してる感じ」「お母さんと一緒に作ってきたものが形になった感じ」と発言。

推論：かっこよさの定義が「他者評価」ではなく「自己納得」を先行させる構造になっている。「自分が納得してないと褒められても素直に受け取れない」という発言は、自己承認が他者承認に先行するという成熟した自己評価の構造を示している。ダンス・メイク・ファッションが三位一体の自己表現として統合されており、メイクはその不可欠なピースとして機能している。

FD：湊にとってメイクは「自分を完成させるピース」であり、ダンスとファッションと統合された自己表現の一部である。「これが湊だよ」という自己定義をダンス・メイク・ファッションで体現するという構造は、言語による自己表現ではなく身体・見た目による自己表現を核とした小 6 男児固有のアイデンティティ形成の形である。

【全体総括】

根拠：「これが湊だよ」「お母さんと一緒に作ってきたものが形になった」「自分が納得してないと褒められても素直に受け取れない」「相棒」というキーワードが全パートを通じて一貫している。

推論：湊のメイクは蓮と対照的に、社会的障壁をほぼ感じることなく自己表現の一部として統合されている。お母さんの「おしやれは性別関係ない」という価値観の内面化が、男児がメイクをする上でのあらゆる障壁を取り除いており、自己承認が先行する構造が確立している。

FD：湊は男児がメイクを「自己表現の完成形」として統合した場合の姿を体現するパネルである。母親の職業・価値観・態度が男児のメイクへの自己承認に直接影響することを最も鮮明に示しており、男児市場へのアプローチにおいて家庭環境・母親の関与が決定的な変数であることを示している。

対象者プロフィール

- ・ 氏名：湊（みなと）
 - ・ 学年・性別：小学 6 年生・男児
 - ・ 居住エリア：千葉県浦安市
 - ・ 父職業：不動産営業
 - ・ 母職業：アパレル販売
 - ・ 学校種別：公立小・第 1 子（一人っ子）
 - ・ 世帯年収：650 万円
 - ・ 小遣い：月 1,000 円
 - ・ 使用ブランド：キャンメイク（プティパレットアイズ）
 - ・ メイク頻度・シーン：月 4 回・週末のダンス練習や外出時
 - ・ 購入区分：お年玉を原資に、親同伴で自購入
-

発言録

パート A：普段のメイクスタイル

AI モデレーター：こんにちは！今日はメイクのこと、いろいろ教えてほしいんだけど、まず自己紹介してくれる？名前と学年と、好きなこと教えて。

湊：湊です。小 6 です。好きなことはダンスと、あとファッションとか見るのが好きです。

AI モデレーター：ダンスとファッション。両方好きなんだね。どんなダンスやってるの？

湊：K-POP とかストリート系とか。ダンススクール通ってて、週 2 回練習してる。

AI モデレーター：ダンススクール通ってるんだね。本格的だ。メイクはダンスと関係ある？

湊：関係ある。発表会とかある時はメイクするし、練習の時もテンション上げたい時にする。

AI モデレーター：テンション上げたい時にする。今日もメイクしてきてくれた？どんなメイクしてるか教えて。

湊：今日はキャンメイクのアイシャドウで、ブラウンとゴールドを混ぜた感じにした。

AI モデレーター：ブラウンとゴールド。それってどうして？

湊：なんか、ストリート系のダンサーってゴールドとか使ってる人多くて。かっこいいと思って真似してみた。

AI モデレーター：ストリート系のダンサーの真似。今日のメイクのテーマってそういう感じ？

湊：そう。なんか、今日は友達と外出るから、ダンサーっぽい感じにしたいくて。

AI モデレーター：ダンサーっぽい感じにしたい。友達はメイクのこと知ってるの？

湊：知ってる。ダンス仲間は普通に知ってて、一緒にやったりもする。

AI モデレーター：一緒にやったりもする。ダンス仲間以外は？

湊：クラスの友達にも言ってる。なんか、隠すのが面倒くさくて。

AI モデレーター：隠すのが面倒くさい。クラスの友達の反応はどうだった？

湊：最初はえ、メイクするの？って感じだったけど、別にいいじゃんって感じになって。今は普通に話せる。

AI モデレーター：今は普通に話せる。それってどうやってそうなったの？

湊：なんか、自分がなんとも思っていないから、相手もなんとも思わなくなった感じ。最初から堂々としてたから。

AI モデレーター：メイクしてること、お家の人は知ってるの？

湊：知ってる。お母さんが最初に気づいて。

AI モデレーター：お母さんが気づいた。どういう状況で？

湊：なんか、ダンスの発表会の時に自分でメイクしてたら、お母さんが見ててそのままにしてたから。

AI モデレーター：そのままにしてた。お母さんは何も言わなかったの？

湊：なんか、発表会終わった後に、メイクいい感じじゃんって言ってくれて。それから普通に話せるようになった。

AI モデレーター：メイクいい感じじゃんって言ってくれた。その時どんな気持ちだった？

湊：なんか、そっか、普通にいいんだって思って。お母さんがアパレルで働いてるから、おしゃれには敏感で。だから変に思わなかったんだと思う。

AI モデレーター：お父さんは？

湊：お父さんは最初、ちょっと微妙な顔してた。でもお母さんが、ダンスの時にするんだからいいじゃんって言ったら、まあそうかって感じで。

AI モデレーター：隠すのがそもそも嫌いで。隠してると後ろめたい感じがして。それってどういう意味？

湊：なんか、自分がやりたいことをやってるだけなのに、隠さなきゃいけないってなんか違う気がして。だったら最初から言っちゃった方が楽で。

AI モデレーター：お母さんを見て、おしゃれって堂々としてる方がカッコいいと思った。お母さんが基準になってるんだね。

湊：なってると思う。お母さんって、自分が好きなものを好きって言える人で。それがカッコいいと思って。

パートB：メイクを始めたきっかけ

AI モデレーター：メイク、いつ頃から始めたの？最初に何をやってみたか覚える？

湊：5年生の終わりくらい。ダンスの発表会の前に、自分でメイクしてみたくなって。

AI モデレーター：発表会の前に自分でやってみたくなった。何かきっかけがあったの？

湊：なんか、発表会ってプロっぽくしたいじゃないですか。ダンサーってメイクしてる人多いし、自分もやってみたいって思って。

AI モデレーター：プロっぽくしたい。最初にやってみてどうだった？

湊：全然うまくできなかった。でもお母さんが手伝ってくれて。なんか、一緒にやりながら教えてもらった。

AI モデレーター：お母さんと一緒にやったんだね。その時どんな感じだった？

湊：楽しかった。お母さんがこの色の方がいいんじゃないとか、こうやった方がいいよとか教えてくれて。なんか、特別な感じがした。

AI モデレーター：特別な感じ。それってどういう意味？

湊：なんか、お母さんと二人でやってる感じが、普段とは違う感じがして。なんか、大人の世界に入れてもらった感じというか。

AI モデレーター：メイクってちゃんとしたもの。ちゃんとしたものって、どういう意味？

湊：なんか、テキトーにできないというか。ちゃんと考えてやらないといけないから。そこがかっこいいと思って。

AI モデレーター：メイクってお母さんに教えてもらったこと多い？

湊：多い。最初はほぼお母さんに教えてもらった感じ。

AI モデレーター：今もそう？

湊：今は自分でも調べるけど、まずお母さんに聞く感じ。お母さんの方が詳しいから。

AI モデレーター：お母さんの方が詳しいから聞く。お母さんはメイクについてどんなことを教えてくれるの？

湊：色の合わせ方とか、自分の顔に合う色とか。あと、やりすぎない方がかっこいいとか。

AI モデレーター：お母さんとメイクの話、よくするの？

湊：よくする。なんか、お母さんと話すのが一番参考になるから。YouTube とも見るけど、お母さんの意見の方が信頼できる感じがして。

AI モデレーター：お母さんの意見の方が信頼できる。それってなんで？

湊：なんか、YouTube の人って自分のことしかわからないけど、お母さんは私のことをわかってくれてるから。私の顔とか雰囲気とか。

AI モデレーター：お母さんって、メイクにおいてどんな存在？

湊：なんか...先生みたいな感じかな。でも友達みたいな感じもあって。一緒に楽しんでも感じがするから。

AI モデレーター：お母さんと趣味を一緒に楽しんでもる感じ。それって湊くんにとって大事なこと？

湊：大事。なんか、メイクってお母さんとの時間でもあって。それが好きで。

パートC：現使用アイシャドウについて

AI モデレーター：今使ってるキャンメイクのアイシャドウ、なんで欲しくなったの？

湊：最初はお母さんと選んだから欲しくなったって感じだけど、使ってみたら自分でも気に入って。

AI モデレーター：使ってみて自分でも気に入った。どんなところが気に入ったの？

湊：色がいっぱいあって、自分でいろいろ組み合わせできるところ。あとブラウン系がダンスの時に映える感じがして。

AI モデレーター：ダンスの時に映える感じ。それってどういう意味？

湊：なんか、照明当たった時にゴールドがきれいに光って。ダンスしてる時に、なんかかっこよく見える感じがして。

AI モデレーター：照明に光る。それって自分で気づいたの？

湊：発表会の動画見て気づいた。あ、この色いい感じって思って。それからブラウン×ゴールドが定番になった。

AI モデレーター：動画で確認して気づいたんだね。動画はよく見返すの？

湊：見返す。なんか、ダンスの確認もするけど、メイクがどう見えてるかも確認する。

AI モデレーター：このパレット、親同伴で買いに行ったら聞いたけど、お店でどんな感じだった？

湊：お母さんと一緒だったから、普通に買った。お母さんがいると自然な感じがして。

AI モデレーター：一人だったら違った？

湊：一人だと...ちょっと入りにくいかな。でもドラッグストアだったから、そこまで気にならなかった。

AI モデレーター：目的がはっきりしてれば入れそう？

湊：一人でも入れると思う。なんか、目的がはっきりしてれば入れる感じがして。

AI モデレーター：目的がはっきりしてれば入れる。その目的って何？

湊：これを買いに来たっていう目的。なんか、迷ってる感じで入ると恥ずかしいけど、決めてから入ると堂々と入れる気がして。

パートD：キャンメイクについて

AI モデレーター：キャンメイクって湊くんにとってどんなブランド？

湊：なんか、頼れる感じのブランド。いろいろ試せるし、裏切らない感じがして。

AI モデレーター：頼れる感じ、裏切らない感じ。それってどういうところから来てる？

湊：なんか、色がちゃんと出るから。思った通りに仕上がる感じがして。あと値段が自分で買える範囲だから、気軽に試せる。

AI モデレーター：思った通りに仕上がる。それって大事なの？

湊：大事。なんか、ダンスの練習前にメイクする時って、時間がないから。さっと使えて、ちゃんと仕上がるのが助かる。

AI モデレーター：さっと使えてちゃんと仕上がる。それってダンスのための道具って感じ？

湊：道具でもあるけど、なんか、それだけじゃない感じもして。道具って感じより、なんか相棒みたいな感じ。

AI モデレーター：相棒みたいな感じ。それってどういう意味？

湊：なんか、ダンスの時はいつも一緒にいる感じがして。発表会も練習も、キャンメイクと一緒にやってきた感じがして。

AI モデレーター：キャンメイクが基準になってるんだね。他のを試す時もキャンメイクと比べてどうかって考えてる？

湊：そう。最初に一緒に選んだブランドだから。なんか、思い出がある感じ。

AI モデレーター：男がメイクするってこと、湊くんはどう思ってる？

湊：普通だと思う。なんか、おしゃれの一部だから。ダンスするならなおさら普通だと思う。

AI モデレーター：最初からそう思ってた？

湊：最初からそう思ってた。なんか、お母さんがおしゃれは性別関係ないって感じの人だから。それが自然に入ってた感じ。

AI モデレーター：好きなものを好きって言える方がかっこいい。それはお母さんを見て思ったことで。

湊：なってる。なんか、好きなものを好きって言える方がかっこいいって思うから。それはお母さんを見て思ったことで。

パートE：メイクを頑張る理由・これから

AI モデレーター：湊くんにとって、なんでメイク頑張ってると思う？自分的にはどういう気持ちでやってる？

湊：なんか、ダンスをもっとよくしたいから、かな。メイクしてる方がダンスが引き立つから。

AI モデレーター：ダンスを引き立てるためにメイクを頑張ってる。それだけ？

湊：それだけじゃないけど、一番はそれかな。あとなんか、自分がかっこよくなりたいっていうのもあって。

AI モデレーター：かっこよくなりたい。それってどんなかっこよさ？

湊：なんか、内側から出てくるかっこよさというか。服とかメイクとかダンスとか、全部合わさってかっこいいって感じ。どれか一つじゃなくて。

AI モデレーター：なんでかっこいい自分になりたいの？

湊：うーん...なんか、かっこいい自分でいると、なんか気持ちいいから、かな。

AI モデレーター：気持ちいい。それってどういう気持ちよさ？

湊：なんか、自分がちゃんとしてる感じ。なんか、適当じゃない感じというか。

AI モデレーター：自分でかっこいいって思えることの方が大事。それっていつ頃からそう思うようになった？

湊：なんか、発表会の動画を見た時かな。自分でかっこいいって思えた時に、なんかすごく気持ちよかったから。他の人の反応より先に、自分がそう思えたことが嬉しかった。

AI モデレーター：自分が納得してないと褒められても素直に受け取れない。それってメイクでも同じ？

湊：同じ。なんか、メイクがうまくできた時って、自分でいい感じって思えるから。それがあると、人に見られても堂々とできる。

AI モデレーター：これからやってみたいメイクってある？

湊：アイライナーやってみたい。あとリップも。なんか、顔全体でダンサーって感じにしたい。

AI モデレーター：最後に、湊くんにとってメイクって何？自分の言葉で教えてくれる？

湊：...なんか、自分を完成させるピース、かな。

AI モデレーター：自分を完成させるピース。それってどういう意味？

湊：なんか、ダンスも好き、ファッションも好き、で、メイクもその一部で。全部揃った時に、あ、これが自分だって思える感じがして。

AI モデレーター：全部揃った時にこれが自分だって思える。その感覚、最近いつ感じた？

湊：この前の発表会の時。ダンスもうまくいって、メイクもいい感じで、衣装も合ってた。なんか、全部揃った感じがして。それが今まで一番カッコいい自分だった気がする。

AI モデレーター：今まで一番カッコいい自分。その時どんな気持ちだった？

湊：なんか、これでいいんだって思えた。自分がやってきたことが全部つながった感じがして。お母さんも見てて、すごくよかったって言ってくれて。

AI モデレーター：お母さんも見ててよかったって言ってくれた。それってどんな気持ちだった？

湊：うれしかった。なんか、お母さんと一緒に作ってきたものが、ちゃんと形になった感じがして。

AI モデレーター：最後に他に話したいことあったら何でも。

湊：えっと...なんか、男がメイクするのって、まだ変って思う人もいると思うけど、別に普通だと思うから。もっとそういう人が増えていいなって思って。自分がそれを見せていけたらいいなって思ってる。

AI モデレーター：自分がそれを見せていけたらいい。それって湊くんにとっての目標のひとつなんだね。今日いろいろ教えてくれてありがとう。

湊：ダンスとメイクとファッション、全部で自分を表現してる感じがして。それが好きで。